



『乳癌検診を受けましょう』

外科医長 山本竜義

乳癌は、女性の癌罹患率（癌になる率）の第 1 位です。乳癌の罹患率は 30 歳代から増加し始め、50 歳前後にピークを迎え、その後は次第に減少しますが、80 歳を超えた方でも乳癌になることがあります。40 歳から 60 歳までの女性のがん死亡原因のトップは乳癌です。

乳癌の発生にはエストロゲンという女性ホルモンが関わっており、最近の乳癌の増加は、食生活やライフスタイルの変化がエストロゲンの分泌に影響しているためと思われます。

乳癌の初期には自覚症状はほとんど現れません。自分で定期的に触診することによって発見される場合もありますが、自覚症状のない段階でがんを発見することができれば、より早期に根治的治療ができ、広い範囲の乳房を切除するような大きな手術をする必要もなく、死亡率を減少させることができます。

自覚症状のない乳癌を早期に発見する方法として、マンモグラフィ（乳房エックス線撮影）と超音波診断装置（エコー）があります。さらに、しこりが癌かどうかや病変の広がりやを診断するために、穿刺吸引細胞診、MRI 検査、CT 検査なども有用です。

40 歳を過ぎたら、1 年に 1 回は画像診断による検診を受けましょう。
乳癌は小さい間に発見すれば、手術成績は良好です。

がん罹患数が多い部位は順に

女性	1位	2位	3位	4位	5位
	乳房	胃	結腸	子宮	肺

日本の最新がん統計まとめ、国立がんセンター

年齢別がん罹患率（乳房 1980年 2000年）女性

